

**中 田 小**

令和8年8月31日

学校教育目標

さわやか笑顔 中田っ子

～思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます～

中田小ホームページ<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakada/>**確かな希望**

校長 荒井 智津子

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な笑い声やあいさつが学校中に響いています。友達との再会を喜ぶ子どもたちの表情を見ると、私たちも自然と笑顔になります。

さて、夏休み明け朝会では、広島平和記念式典で「平和への誓い」という大役を務めた広島の小学生のスピーチの一部を紹介しました。

私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があります。

目をそらさず、知ろうとすること。 悲しい現実でも向き合うこと。

そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。

私たちには、広島のかどもとして、行動する責任があります。

相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。

平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。

平和とは、誰かから与えられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

こどもである私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。

かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

「平和とは、誰かから与えられるものではなく、みんなで創り上げるものであること。相手の気持ちを想像し、意見の違いを認め、多様性を受け止めること。自分の小さな行動が平和への後押しとなること。」自分なりの「平和」への思いを世界に向けて発信する小学生の言葉に、私は深く心を動かされました。

平和をみんなで創り上げていく過程には、乗り越えなければならない様々な心の葛藤や人との関わりがあります。私は、相手の気持ちを想像し違いを認め合いながら対話を重ねていくことこそが、平和への確かな一歩につながるのではないかと考えます。

子どもたちにとって学校は小さな「社会」です。その中で、友達との考え方や感じ方の違いに戸惑ったり、自分の思いをうまく伝えられず悩んだりすることもあります。「何も起きないこと」が平和なのではなく、違いや課題に向き合いながら、自分なりにどう乗り越えていくかを考えて、行動する力が身に付くことが本当の平和な学校生活につながるのではないのでしょうか。

広島の小学生のまっすぐな言葉にふれ、改めて「共に生きる」ことを自らの行動で実践できる子どもたちを育てていきたいと誓った夏の日となりました。